山梨県立富士見支援学校　第1回　学校運営協議会　　議事録

日時:令和8年6月5日(金)15:30～

場所:富士見支援学校本校メディアルーム

≪　次第　≫

司会:教頭　　記録:副校長

1　開会のことば

2　校長あいさつ

・本日は本校の学校運営協議会に参加いただき感謝申し上げる。

・本日は、学校運営方針や学校評価目標等に関する議事に加え、「熟議」等も予定されている。本校に対する活発な意見をぜひお願いしたい。

3　委員自己紹介　（資料1）

・資料1に基づき各自で事項紹介。

・山梨県立北病院長谷部医師は本日都合により欠席となるが、後日意見をいただく機会を設けたい考え。

4　山梨県立富士見支援学校　学校運営協議会運営要綱について　　（資料2）

・資料2に基づき説明。本会の要綱は昨年度から変更はない。本会は要綱に基づき運営していくことを確認した。

5　会長・副会長選出

・前年度からの流れを汲む形で、会長に小林委員、副会長に深澤委員を選出。承認された。

6　富士見支援学校学校運営協議会会長挨拶

・昨年度に引き続き、会長を拝命した。議事の進行がスムーズにいくよう努めたい。ご協力をお願いしたい。

7　議題(進行:小林会長)

(1)　　令和8年度　学校運営方針について（校長）　（資料3）

・伊神校長より資料3に基づいて学校運営方針について説明。

・委員より承認を受けた。

(2)　本校・旭分校の状況について　（教務主任・相談支援部主任）（資料4）

・特に質疑等なし。

(3)　令和7年度学校評価の報告及び令和8年度学校評価目標について　（資料5－1～5－3）
（教頭・副校長）

・重点目標の具体的方策にキャリア教育の項目をなぜ取り入れたか、また、そもそもキャリア教育とは何か、この後の熟議にも関係してくることから説明をお願いしたい。【深澤委員】

⇒【遠山教頭】本校の重点目標にキャリア教育の項目を取り入れた理由は大きく分けると2つあると考えている。

・一つは、本校・旭分校ともに、在籍が長期化する児童生徒が多く、進路指導等も含め、児童生徒がキャリアについて考える教育活動の厚みを増す必要があるということ。

・もう一つは、今後、本校・旭分校から卒業していくケースあるいは入学してくるケースが増えていくことも考慮し、より系統的な教育活動が必要になってきていること。

これらを意識して具体的方策に明記した。

また、キャリア教育とは、進路指導そのものを指すのではなく、その児童生徒の将来について様々な側面から考え、自己選択・自己決定していく学びの連続だと捉えている。学校生活の中で日々の振り返りや明日への目標付け、行事への取組等も含め、様々な内容がキャリア教育だと考えている。その中で、進路選択は大きな核であると考えている。

(4)　熟議
①熟議の仕方についての説明　（資料6）
②テーマ「進路指導も含めたキャリア教育について」　（資料7）

＊全委員及び学校関係者参加による意見交換を実施。2 グループ（本校グループ・旭分校グループ）に分け、テーマにそった課題点の洗い出しと解決のための具体的な方策について意見交換を行った。

富士見支援学校　本校　熟議のまとめ

【課題点】

①個別性に応じた進路支援体制・計画の再確認
・身体疾患／メンタル／神経発達症などにより支援の在り方が異なる
・将来を考えられる状態にあるかの見極めが必要

②進路を考えるための基盤（自己理解・生活基盤）の不足
・学習時間確保が困難
・自己理解が不十分
・将来像を持てない生徒がいる
・現実社会との乖離（守られた環境にいることによる）

③進路情報・体験機会の不足
・職業情報が不足
・職場体験の場が少ない、本校の生徒にとってハードルが高い

・受け入れ側の理解や体制不足

④関係機関連携(家庭・前籍校・地域)のさらなる推進

・前籍校との連携不足
・家庭との情報共有の難しさ
・進路判断に保護者の迷いが大きい

⑤モデル提示・意思決定支援の充実

・モデルケースや見通しが持ちにくい
・卒業後のイメージが弱い
・意思決定に迷う

■まとめ(全体像)

〇本件の本質的課題は、「体調・障害特性により進路を考える準備段階そのものが異なる」点にある。
そのため、一律の進路指導ではなく

・段階的支援
・個別最適化
・小さな成功体験の積み重ね

を柱にしたキャリア教育への転換が重要だと考えられる。
具体的な方策案として、
・個別性も考慮した進路指導年間計画のリニューアル
・自己理解のための活動の確保(自立活動の時間など)
・小さな成功体験を積む活動の計画的実施
・山梨県ハイスクールガイドや「KANAU」の活用
・可能な範囲での職場体験の実施もしくは動画の視聴などによる疑似的な体験機会の確保、職業調べ活動
・本人だけでなく保護者に向けた進路相談会等の実施(懇談)
・卒業生(過去に在籍していた生徒)による体験談・交流会の機会確保　　など実施できないか。

富士見支援学校　旭分校　熟議のまとめ

①自己理解・自己形成

・一人一人の関心というか心が開かれていないと難しい
・自己理解(体調を知る、自分に必要な支援、得意不得意)
・進路云々の前に自分の存在、あり方に悩む
・どんな人にあこがれている？(書き出したり話し合ったりする)
・自分のことについて説明できる力をつける
・『これだけは嫌だ、こういう大人にはなりたくない』について書き出す、話し合う
・1年後どうなっていたいか

②主体的な選択と生き方

・何もしないという選択の保障をすると広がる

・進路先云々が先に来るのは指導が難しい(先より今を充実させる)

・自分で選ぶ力をどうつけるのか(分校を卒業できること、今を生きるということ)

③社会・他者との関わり

・モデルの提示(職業理解)

・人生の先輩に触れてみる(会ってみる、話を聞く)

・多様な人との触れ合いの機会の創出

④体験活動・実践

・体を使う体験(室内・室外)少しでいいから触れてみる

・保護者の勤務先に職場体験の協力を依頼する

・職場体験に参加できる状態に本人を持っていくのに時間がかかる(薬の調整等含む)

・職場体験(地域支援、校内実習)

・職場体験というより非日常体験という考え方

⑤進路観と将来認識

・支援学校卒業という肩書きを本人が将来どう思うのか今決めることが難しい

グループの考え方(簡単な補足)

- **自己理解・自己形成**:内面理解や自己表現、価値観形成に関わる内容
- **主体的な選択と生き方**:「今を生きる」「選ぶ力」などキャリアの根幹
- **社会・他者との関わり**:ロールモデルや人との接触を通した学び
- **体験活動・実践**:職場体験や非日常体験など具体的な活動
- **進路観と将来認識**:ラベルや将来への捉え方の難しさ

(5)<u>その他委員より</u>

●深澤委員より

・学校の困っていることに焦点を絞って具体的な部分から迫る必要がある。具体から入らないと意見が述べにくい。その点では今回の具体から入る取組は良かったと言えるのではないか。

・教育目標について、本校と旭分校が一緒であるということに違和感がある。在籍する児童生徒の実態に違いがあることから、そのように感じる。

・忙しいことは承知の上であるが、通知をもらうときにある程度の資料がほしい。事前にもらえれば読み込んで発言の準備に時間をかけることができる。

8 その他

(1)年間行事予定

(2)今後の予定

第2回　令和8年11月　6日(金)15時30分から

第3回　令和9年　2月12日(金)15時30分から

＊これ以外にも学校行事等に関して、ご意見をいただく機会を設定する場合もあることを説明。

9　閉会のことば